

# 教 員 業 績

フリガナ	オオモリ タクヤ				
氏 名	大森 拓哉				
学 歴					
年 月	事 項				
平成 2(1990)年 4月	筑波大学第三学群基礎工学類入学				
平成 6(1994)年 3月	筑波大学第三学群基礎工学類（構造工学専攻）卒業				
平成 6(1994)年 4月	東京工業大学研究生				
平成 7(1995)年 4月	東京工業大学大学院総合理工学研究科システム科学専攻（教育システム工学講座）修士課程入学				
平成 9(1997)年 3月	東京工業大学大学院総合理工学研究科システム科学専攻（教育システム工学講座）修士課程修了（工学）				
平成 9(1997)年 4月	東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻（生命環境科学系認知行動科学）博士後期課程入学				
平成 11(1999)年 10月	東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻（生命環境科学系認知行動科学）博士後期課程退学				
職 歴					
年 月	事 項				
平成 9(1997)年 4月	東京大学大学院総合文化研究科ティーチングアシスタント（平成 10(1998)年 3月まで）				
平成 10(1998)年 4月	東京大学大学院総合文化研究科リサーチアシスタント（平成 11(1999)年 3月まで）				
平成 10(1998)年 4月	専修大学文学部心理学科ティーチングアシスタント（平成 11(1999)年 10月まで）				
平成 11(1999)年 10月	東京大学大学院総合文化研究科・教養学部学生相談所助手（平成 16(2004)年 9月まで）				
平成 12(2000)年 4月	専修大学文学部心理学科非常勤講師 担当：心理学コンピュータ実習、心理学基礎実験Ⅰ（平成 17(2005)年 3月まで）				
平成 16(2004)年 10月	多摩大学経営情報学部助教授（平成 19(2007)年 3月まで）				
平成 19(2007)年 4月	多摩大学経営情報学部准教授（平成 24(2012)年 3月まで）				
平成 21(2009)年 4月	東京大学教養学部非常勤講師 担当：方法基礎（現：人文社会ゼミナール）（データ分析・心理学統計法）（現在に至る）				
平成 22(2010)年 9月	独立行政法人大学入試センター入学者選抜研究機構協力研究者客員研究員（平成 23年 3月 31日まで）				
平成 23(2011)年 9月	独立行政法人大学入試センター入学者選抜研究機構協力研究者客員研究員（平成 24年 3月 31日まで）				
平成 24(2012)年 4月	多摩大学経営情報学部教授（現在に至る）				

学 会 及 び  
社 会 に お

現在所属している学会	
日本教育工学会、日本行動計量学会、日本テスト学会、日本学生相談学会、全国学生相談研究会議、International Association of Applied Psychology (国際応用心理学会)	
	事 項
平成 21 (2009) 年 4 月	日本行動計量学会 理事、副事務局長 (現在に至る)
平成 22 (2010) 年 4 月	日本テスト学会第 8 回大会実行委員
() 年月	日本行動計量学会運営委員
() 年月	日本テスト学会広報委員
平成 12 (2000) 年月	日本行動計量学会第 28 回大会実行委員
平成 24 (2012) 年 4 月	日本行動計量学会 理事、運営委員長、事務局
平成 25 年 (2013 年) 3 月	日本行動計量学会第 15 回春の合宿セミナー事務局、実行委員
平成 25 年 (2013 年) 8 月	日本テスト学会編集出版委員
平成 26 年 (2014 年) 3 月	日本行動計量学会第 16 回春の合宿セミナー事務局、実行委員
平成 27 年 (2015 年) 3 月	日本行動計量学会第 17 回春の合宿セミナー事務局、実行委員
平成 27 年 (2015 年) 4 月	日本行動計量学会 理事、運営委員長、事務局、大会実行委員
平成 27 年 (2015 年) 4 月	日本教育工学会第 31 回大会実行委員
平成 28 年 (2016 年) 8 月	日本テスト学会第 14 回大会実行委員
平成 29 年 (2017 年) 2 月	日本行動計量学会第 18 回春の合宿セミナー事務局、実行委員
平成 29 年 (2017 年) 8 月	IFCS(International Federation of Classification Societies)2017 Local Organizing Committee
平成 29 年 (2017 年) 11 月	日本行動計量学会第 1 回秋の行動計量セミナー事務局、実行委員
平成 30 年 (2018 年) 2 月	日本行動計量学会第 19 回春の合宿セミナー事務局、実行委員
平成 30 年 (2018 年) 4 月	日本行動計量学会 理事、事務局、大会担当委員長、大会実行委員
賞 罰	
年 月	

	なし
--	----

研究分野		研究内容のキーワード	
教育工学		e-learning、人工知能、行動計量学、ベイズ統計学	
教育上の能力に関する事項			
事項	年月日	概要	
【1 教育方法の実践例】 講義評価フィードバック型授業の実践	2000年4月日	毎回の授業の終了時にその日の各個人の理解度、教授方法の評価（いずれも点数評価）、および疑問点・感想点（自由記述）を提出させ、次回の講義開始時にそれらに対するフィードバックを行った。理解度・疑問点などは学生間で共有することが可能になり、また教授方法の評価や感想記述などにより次回授業への改善点が明らかになった。	
【1 教育方法の実践例】 新入学時グループカウンセリングの実践	1999年11月日	大学新生が大学入学直後に感じる不安・心配を大学生同士が受容し支えるため、毎週1回のグループカウンセリングを実施した。新入学時は不適應感が極めて高い時期であるが、毎回のグループ活動をこなしていくうちに大学生活への順応もスムーズに行われていった。	
【1 教育方法の実践例】 電子メールカウンセリングの実践	1999年11月日	学習・生活上の悩みや相談を、従来の面接形式ではなく、電子メールを介しても行った。電子メールが学生の誰でもが気軽に利用できるツールとなった現在では電子メールを介した相談は大変有効であり、対面形式での心理相談に移行するためのラポールの形成にも重要な役割を果たした。	
【1 教育方法の実践例】 Web 上における学習者の誤り修正支援システムの構築	2005年4月日	学習者が課題等を解く際に、どこで間違ったか、どういう誤りを犯したかを判断し、学習者の理解状態に応じて適切な助言・アドバイスを自動的に与えるシステムを Web 上で作成し、インターネットを通じて利用できるようにした。	
【2 作成した教科書、教材】 電子メディアにおける漢字頻度調査	1998年7月日	新聞・電子メディアにおける漢字の使用頻度調査・および旧字体・新字体のどちらが好まれて使われるか、およびその出現頻度の調査研究を行った。ならびにインターネットなどの電子メディア上では旧字体が正確に表示されない問題点について、専用ソフトを導入することによりその問題点を解決した。その結果に基づき、漢字の使用頻度教材を作成・出版した。	
【2 作成した教科書、教材】 コンピュータ使用教材の作成	2000年4月、	コンピュータ使用の初心者に対し、各種ソフトの使用方法やネットワークの利用、UNIXサーバを介したネットワークの利用等について記述した教材を作成・配布するとともに、電子ファイルを Web 上で公開した。	
【2 作成した教科書、教材】 統計解析ソフト使用教材の作成	2000年4月日	心理・教育学を学ぶ上で必要な測定方法およびその統計解析ソフトの使用方法等について記述した教材を作成・配布するとともに、電子ファイルを Web 上で公開した。	

【2 作成した教科書、教材】 社会調査法	2001年10月日	人間の様々な行動を測定するための調査方法について、その概要と実際に行う場合の注意点をまとめた教材を作成・配布した。特に質問紙調査法については、その実施の方法と演習、データの解析方法と報告書作成の手順について詳細に記し		
【3 教育上の能力に関する大学等の評価】 学生相談所初回利用者の訪問時間の分析	2003年5月日	日本学生相談学会第21回大会において、大学の相談機関を初めて利用する来談者が訪れる時間帯の調査・分析を行い、相談機関としての準備態勢についての考察を行った。		
【3 教育上の能力に関する大学等の評価】 学生相談におけるIT化と来談者データの解析	2004年5月日	日本学生相談学会第21回大会において、学生相談機関におけるIT技術の積極的導入推進とその実践報告、および相談体制の変化に伴う来談者数の変化についての考察をおこなった。		
【4 実務の経験を有する者についての特記事項】	年月日			
【5 その他】	年月日			
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項 、				
事 項		年 月 日		概 要
【1 資格、免許】 高等学校第一種教員免許, 理科・工業	1994年3月日			
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書, 学術論文等の名称	単著 共著 の 別	発行又は 発表の 年 月	発行所, 発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
(著書)				
新聞・電子メディアの漢字	共著	1998年 7月	三省堂	
心理統計学	共著	2008年 5月	培風館	心理学の世界・専門編15
統計応用の百科事典	共著	2011年 10月	丸善出版	

著書，学術論文等の名称	単著 共著 の 著 者 別	発行又 は 発表の 年 月	発行所，発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
(学術論文)				
ユーザーレベルを考慮したヒューマンインターフェースの一研究	共著	1994 年月		鬼沢武久、大森拓哉、孫ヨンスン、第10回ファジイシステムシンポジウム、1994(ファジイ推論によりユーザーに適切なインターフェースを提供するシステムを提案した)
バグルールのバイズ診断	共著	1995 年月	日本教育工学会	繁榎算男、大森拓哉、吉村幸、日本教育工学会第11回大会論文集 pp247-248(1995(誤りルールを自動診断する確立ネットワークモデルを提案した。))
漢字使用頻度の時代的変化に関する考察	共著	1996 年月	計量国語学会	野崎浩成、横山昭一、大森拓哉、計量国語学会第40回大会、『計量国語学』20巻7号、pp320-321、1996(漢字の使用頻度の時間的変化を調査・分析した。)
中学語検定試験における等価の一方法	共著	1996 年月	日本教育工学会	吉村幸、大森拓哉、繁榎算男、日本教育工学会第12回大会 講演論文集 pp535-536(1996(中国語検定試験において、項目応答理論によるテスト等価の方法を提案した。))
バイズ的アプローチによるバグルール診断システム	共著	1997 年月	教育工学関連学協会連合	大森拓哉、繁榎算男、教育工学関連学協会連合第5回全国大会論文集、pp343-344(1997(引き算の計算の際に犯す誤りを診断するシステムを提案した。))
バイズ的アプローチによる2値データの因子分析	共著	1998 年月	日本行動計量学会	大森拓哉、繁榎算男、日本行動計量学会第26回全国大会発表論文抄録集、pp45-46(1998(バイズ的方法による2値データの因子分析法を提案した。))
潜在変数による予測	共著	1998 年月	日本行動計量学会	繁榎算男、大森拓哉、日本行動計量学会第26回全国大会発表論文抄録集、pp37-38、1998(潜在変数モデルを組み込んだ回帰分析法を提案した。))
Bayesian Inference for structural Equation Modeling	共著	1999 年月	日本行動計量学会	繁榎算男、大森拓哉、星野崇宏、日本行動計量学会第27回全国大会発表論文抄録集 1999(バイズ法による共分散構造分析モデルの解析法を提案した。))
WWW上での学習者のバグルール診断システム	共著	1999 年月	日本教育工学会	大森拓哉、繁榎算男、日本教育工学会第14回大会論文集、pp329-330(1999(誤り診断システムをWWW上で構築した。))
駒場の学生相談所に期待されること	共著	1999 年月	東京大学学生相談所	丹野義彦、大森拓哉、東京大学学生相談所紀要、第11号、pp9-12、1999(教養課程における学生相談の役割の重要性を示した)

教育におけるデータマイニング	共著	2000年 月	教育工学関連学協会連合	藤原康弘、大森拓哉、植野真臣、教育工学関連学協会連合第6回全国大会論文集、pp107-1082000（教育データにおけるデータマイニング方法を提案した。）
Bayesian Factor Analysis of Binary Data using Neural Networks	共著	2001年 月	International Meeting of Psychometrics Society	T.Ohmori, K.Shigemasu, International Meeting of Psychometrics Society 2001, pp238, 2001
確率ネットワークモデルによる分数計算のパグルール診断	共著	2001年 月	日本教育工学会	大森拓哉、繁榎算男、日本教育工学会第17回大会論文集、pp637-6382001（分数計算における誤り診断システムを提案した。）
Identification of Structural Equation Modeling	共著	2002年 月	International Congress of Applied Psychology	T.Ohmori, K.Shigemasu, 25th International Congress of Applied Psychology, 2002
Bayesian Method of Structural Equation Modeling	共著	2002年 月		共分構造モデルに Gibbs Sampling 法を適用する方法を提案し、シミュレーション実験で有用性を確認した。
漢字選好モデルの数量化I類とニューラルネットワークモデルによる検討	共著	2002年 月	日本行動計量学会	大森拓哉、繁榎算男、日本行動計量学会第30回大会発表論文抄録集、2002（漢字の旧字体新字体のどちらが好きかについて、数理モデルにより検討した。）
Bayesian Analysis of Structural Equation Modeling	共著	2002年 月	Measurement and Multivariate Analysis	Kazuo Shigemasu, Takahiro Hoshino, Takuya Ohmori Pp207-216
BUGSによるIRTの現実的適用	共著	2003年 月	日本テスト学会	繁榎算男、大森拓哉、日本テスト学会第1回大会論文抄録集、pp42-422003（Gibbs Sampling 法による数値計算ソフト BUGS を用いて項目応答理論の各種モデルを表現した。）
SD法によるイメージ測定結果の顔グラフによる表現	共著	2003年 月	日本行動計量学会	大森拓哉、繁榎算男、日本行動計量学会第31回大会発表論文抄録集、pp212-2132003（イメージの測定結果を顔グラフにより表現する方法を提案した。）
大学イメージの顔グラフによる表現	共著	2003年 月	日本教育工学会	大森拓哉、繁榎算男、日本教育工学会第19回大会講演論文集、pp693-6942003（大学生が持つ各大学に対するイメージを顔グラフにより表現した。）
Market Segmentation Method from the Bayesian viewpoint	共著	2003年 月	Between Data Science And Applied Data Analysis	Kazuo Shigemasu, Takuya Ohmori, Takahiro Hoshino pp595-602

IRTの多肢選択モデルとBUGSプログラム	共著	2004年 月	日本テスト学会	繁榎算男, 大森拓哉, 森一将, 日本テスト学会第2回大会 pp84-85, 2004
大問形式のテストのグラフ化と適応型テストにおける項目選択	共著	2004年 月	日本行動計量学会	大森拓哉, 繁榎算男, 日本行動計量学会 第32回大会, Pp112-113, 2004
学生相談におけるIT化と来談者データの解析	単著	2004	日本学生相談学会	大森拓哉, 日本学生相談学会第22回大会発表論文集, pp64-65
Image Representation by Chernoff Faces	共著	2004年 月	28th International Congress of Psycholog	Takuya. Ohmori, and Kazuo Shigemasu, 28th International Congress of Psychology, 2004
テストレット形式問題のネットワーク型アダプティブテスト	共著	2005年 月	日本行動計量学会	大森拓哉, 繁榎算男, 日本行動計量学会第33回大会, pp264-265, 2005
Analysis of marketing data containing dummy variables using neural networks and cluster analysis	共著	2005年 月	The Japanese-German Joint Symposium on Advanced Intelligent Systems	Takuya Ohmori, Masaharu Aiuchi, Yoshifumi Morita, Jian Chen, takahiro Hoshino, and Kazuo Shigemasu, The Japanese-German Joint Symposium on Advanced Intelligent Systems, pp1100-1105, 2005
Image representation by graphical expression	共著	2005年 月	International Symposium on Advanced Intelligent Systems	Takuya Ohmori, Kazuo Shigemasu, The 6th International Symposium on Advanced Intelligent Systems, pp1100-1105, 2005
国立総合大学における学生相談の展開と課題	共著	2005年 月	大学と学生	高野明, 大森拓哉 平成16年第2号, pp42-48
アメリカの大学における学生相談体制の視察報告	共著	2006年 月	東京大学総合文化研究科学生相談所紀要	繁榎算男・丹野義彦・大森拓哉, 東京大学総合文化研究科学生相談所紀要第10号, pp4-21
テストレットを含む適応型テスト	共著	2006年 月	日本行動計量学会	大森拓哉, 繁榎算男, 日本行動計量学会第34回大会発表論文抄録集, pp34-35,
ツリーモデルを用いたバグルールの適応型ベイズ診断、	共著	2007年 月	日本教育工学会論文誌	大森拓哉, 繁榎算男, 31巻2号, 211-218,
多次元IRTモデルによるバグの判別	共著	2007	日本行動計量学会	大森拓哉, 繁榎算男, 日本行動計量学会第35回大会発表論文抄録集, pp101-102,



Testlet Adaptive Testing by Bayesian Network Modeling	共著	2007年 月	<i>International Meeting of the Psychometric Society</i>	Takuya Ohmori, Kazuo Shigemasu, <i>International Meeting of the Psychometric Society</i>
統計教育における統計グラフ教育の現状	共著	2008年 月	日本行動計量学会	中西寛子, 深潭弘美, 山本義郎, 竹内光悦, 大森拓哉、日本行動計量学会第36回大会発表論文抄録集 Vol. 36. 201-202
A Support System of Students' Error by Probabilistic Modeling	共著	2008年 月		Takuya Ohmori, Kazuo Shigemasu, <i>29th International Congress of Psychology</i>
テストレットモデルの母数のベイズ推論	共著	2009年 月	日本行動計量学会	森一将、大森拓哉、繁榎算男、第37回日本行動計量学科第37回大会発表論文抄録集、
グラフィカルテストレットモデルによる適応型テストへの実データの適用	共著	2009年 月	日本行動計量学会	大森拓哉、繁榎算男、日本行動計量学会第37回大会発表論文抄録集、
Bayesian adaptive diagnoser of bug rules with tree structure model,	共著	2009年 月	The Fourth IASTED International Conference on Computational Intelligence,	Takuya Ohmori, Kazuo Shigemasu,
Educational diagnosis by graphical testlet response model	共著	2010年 7月	27 th International Congress of Psychology	Takuya Ohmori, Kazuo Shigemasu,
相関構造を仮定したテストレットモデルのベイズ推論 - 国立大学法人等の教育研究評価データへの適用 -	共著	2011年 3月	大学評価・学位研究	森一将、大森拓哉、繁榎算男、第12号
確率ネットワークモデルによる誤り診断と統一テストへの適用	共著	2011年 月	日本テスト学会	大森拓哉、繁榎算男、日本テスト学会第9回大会、
心的イメージの他次元での表現とその評価	単著	2011年 月	日本行動計量学会	大森拓哉、日本行動計量学会第37回大会発表論文抄録集、

著書、学術論文等の名称	著者別 単共の	発行又は 発表の 年 月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
全国統一テストにおける知識型テスト・問題解決型テストと意識との関係性	共著	2012年8月	日本テスト学会	高橋 誠、細谷 幸裕、小川 大和、大森 拓哉、森 一将、繁樹 算男、日本テスト学会第10回大会、
多値型 IRT モデルの推定値順序性と項目バンクの開発	共著	2013年8月	日本テスト学会	森一将、大森拓哉、日本テスト学会第11回大会
「採点のばらつき」はどこまで認められるか？ - 多値型 IRT による分析 -	共著	2013年8月	日本テスト学会	大森拓哉、森一将、日本テスト学会第11回大会
心的イメージの別次元での表現方法の開発	単著	2013年9月	日本行動計量学会	大森 拓哉、日本行動計量学会第41回大会
A new representation method of mind image data and its applications to career selection	共著	2014年7月	第28回国際応用心理学会	Takuya OHMORI, Kazumasa Mori, The 28th International Congress of Applied Psychology (ICAP2014)
大学教養英語の授業におけるインターネットを介した小テストの実践例	共著	2014年8月	日本テスト学会	新谷真由、大森拓哉、森一将、日本テスト学会第12回大会
極端な値を用いた項目バンクの等化係数の影響について	共著	2014年8月	日本テスト学会	大森拓哉、森一将、日本テスト学会第12回大会
多値型 IRT の近似予測量を用いた項目バンクの検討	共著	2014年8月	日本テスト学会	森一将、大森拓哉、日本テスト学会第12回大会
職業イメージのグラフィカル表現とキャリア選択への応用	単著	2014年9月	日本行動計量学会	大森 拓哉、日本行動計量学会第42回大会
LLTM による英文法問題項目分析の実践的研究	共著	2015年8月	日本テスト学会	大森拓哉、森一将、新谷真由、日本テスト学会第13 回大会
多値型 IRT の近似ベイズ推定量を用いた項目等化について	共著	2015年8月	日本テスト学会	森一将、大森拓哉、新谷真由、日本テスト学会第13 回大会
従属関係が存在するテストレットモデルの項目選択法の実験的検討	単著	2015年9月	日本行動計量学会	日本行動計量学会第43 回大会
Image schema-based instruction in English grammar.	共著	2016年	In P. Clements, A. Krause, & H. Brown (Eds.), Focus on the Learner. Tokyo: JALT.	Shintani, M., Mori, K., & Ohmori, T.

認知診断モデルによる誤り要因分析	共著	2016年9月	日本テスト学会	大森拓哉, 森一将, 日本テスト学会代14回大会
オンライン英会話グループ学習を用いた英語学習態度改善の取り組みと測定	共著	2016年9月	日本テスト学会	森一将, 遠山道子, 新谷真由, 大森拓哉, 日本テスト学会代14回大会
数学検定試験における誤り要因分析	共著	2016年9月	日本行動計量学会	大森拓哉, 森一将, 日本行動計量学会第44回大会
The Bayesian estimators of polytomous item response theory models with approximated conditional likelihood and their mathematical optimalities	共著	2016年12月	IEEE Big Data2016	2017 IEEE International Conference on Big Data workshop, Mori, K., & Ohmori, T.
面接試験における直感評定の総合的検討とAO入試への適用	共著	2017年8月	日本テスト学会	森一将, 大江朋子, 大森拓哉, 日本テスト学会代15回大会
職業イメージの差異のグラフ表現法の提案	共著	2017年9月	日本行動計量学会	大森拓哉, 森一将, 日本行動計量学会第45回大会
教育実習評価からみる教師としての資質の推移と事前事後指導のありかたの検討	共著	2018年2月	多摩大学経営情報学部教職研究Vol.1, pp1-10.	大森拓哉, 齋藤S.裕美
(その他)				
「小学校および中学校における統計教育追跡調査」	共著	2010年月		中西寛子, 山本義郎, 竹内光悦, 大森拓哉, 深澤弘美, 成蹊大学研究助成による調査結果報告書